

## 「食道癌の化学放射線療法」実施手順の説明

あなたがこれから受けられる治療は、「化学放射線療法」と呼ばれる治療法です。  
この治療計画の実際の手順について質問形式でご説明します。

### **【質問】 手順はどのようなものか？**

(最終頁の流れ図参照)

1. 最初に病気そのものの診断とあなたのからだの状態をチェックします。
2. 次に「化学放射線療法」を開始しますが、最初から約6週間行う場合（流れ図中の①）と約4週間行う場合（流れ図中の②）と2通りあります。
3. 約4週間行う場合には、終了後「化学放射線療法」の効果を評価します。
4. その後は流れ図にあるように二つに分かれます（③、④）。

③ 一時退院し、その後3～4週間待って手術を行う場合。

④ 「化学放射線療法」をさらに約2週間あまり追加する場合。

いずれの場合も退院後は外来経過観察となります。

### **【質問】 治療開始前に行うことは？**

最初に以下のi)～iv)をします。

- i) 病気そのものの診断
- ii) 病気の場所（位置）の診断
- iii) 病気のひろがりの診断
- iv) あなたのからだの状態の診断

### **【質問】 病気そのものの診断とは？**

胃カメラで食道をのぞき、食道の病気の一部を少しつまんでみます。それを顕微鏡で調べると食道がんの診断がつきます。

この検査は外来で受けておられると思いますが、必要に応じて入院後も再検査することがあります。

### **【質問】 病気の場所（位置）の診断とは？**

食道はいわば口と胃袋を結ぶ筋肉の管<sup>くだ</sup>で長さは約30センチあります。この管のどの場所に病気があるか？は、胃カメラでも分かります。しかしバリウムを飲んでいただいてエックス線写真を撮って病気が存在する場所を確認することもあります。また超音波検査やCT、MRI、などの検査をすることによってより正確な情報を集めることが可能になります。

### **【質問】 病気のひろがりの診断とは？**

次にその病気がどこまで進んでいるか？たとえば食道内で止まっているのか？それとも食道を飛び出して周りのリンパ節まで飛び火しているのか？あるいは肝臓などもっと遠くまで飛び火しているのか？を調べる必要があります。これを診断することを病期診断（ステージ診断）といいます。いわば重症度を判断することになります。病期はI期からIV期までに分類され、各病期に応じて治療法が選択されます。各種CT検査、MRI検査、超音波検査、骨シンチなどの検査が必要です。

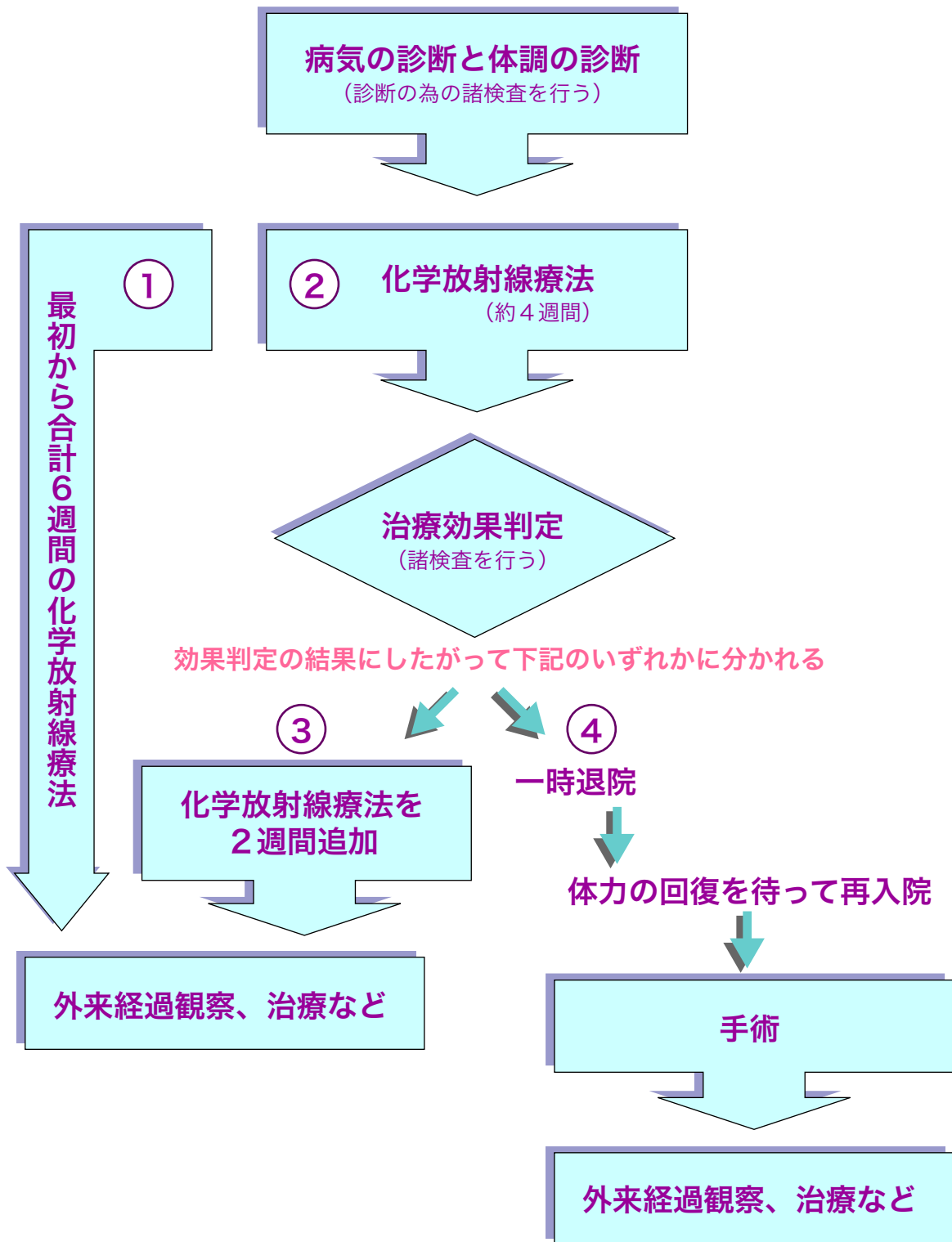
### **【質問】 からだの状態の診断とは？**

さて今までの検査で食道がんとその重症度が分かりました。そしてあなたの病気に対しては、まず「化学放射線療法」を行うのが適当であると判断されました。しかし、そうだからと言って次にいきなり治療を開始するというわけにはいきません。なぜならば、治療には副作用が多少とも伴うからです。

「化学放射線療法」は「化学療法」と「放射線療法」を同時に行う治療方法です。「化学療法」は正確には「がん化学療法」と言って抗がん剤による治療です。放射線も抗がん剤もどちらも副作用があります。このため、そのような副作用にあなたのからだ<sup>からだ</sup>が耐えられるかどうか、前もってチェックしておく必要があります。たとえば、肝臓の働き具合（肝機能）や腎臓、心臓などの機能がどうか？をあらかじめ血液・尿検査、その他の検査で確認しておく必要があります。これらがすべて良好なことを確認した後で初めて「化学放射線療法」を開始することが可能となります。

もしもあなたのからだの状態が不十分な場合でも「化学放射線療法」を始める場合があります。そのような場合には、抗がん剤の使用量を減量したり、副作用がより少ない抗がん剤に変更したりと工夫をします。

# 「食道癌の化学放射線療法」の実施手順の流れ図



(文責：臨床腫瘍部 相羽)